

平成 28 年度事務事業評価表 (一般用)

事務事業名		091201 灰溶融スラグ活用事業		担当部課	部課コード	091200	2998-5300	
事業コード		091201		東部クリーンセンター施設課				
開始年度		平成 15 年度		終了年度	年度			
グループ		施設グループ						
事業の概要	事業の種類別	自治事務 法定受託事務 法定受託 + 附加			根拠法令			
	分野別計画・指針	所沢市一般廃棄物処理計画			廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
	関連・類似事業							
	総合計画の体系	章 環境・自然	節 廃棄物の減量・資源の循環	基本方針	ごみの減量と資源化の推進			
事業開始の背景	溶融スラグは具体的な利用先がなく、最終処分場へ埋立処分をしていた。そのため、一刻も早い資源化対策が必要であった。							
事業の内容	目的(どのような効果を目指して実施しているのか、具体的に)							
	循環型社会における循環資源としての溶融スラグを積極的に有効利用すること及び廃棄物処理費用を削減することを目的とする。							
	対象(誰を、何を対象としているのか)	対象数	単位	平成 26 年度	平成 27 年度			
	東西クリーンセンターで発生した焼却灰等を溶融することによって得られたスラグ			6,427 t	6,015 t			
事業の具体的な内容及び実施方法								
スラグの性状等を分析し、JISに適合し安全に使用できることを確認する。 スラグの有効利用先を検討する。 スラグの有効利用先との調整を行う。 有効利用実績の管理及び施設の維持管理								
経費	会計種別	一般会計		平成 26 年度 (千円)	平成 27 年度 (千円)	平成 28 年度 (千円)		
	予算現額			2,435	2,419	2,398		
	決算(見込み含む)			2,351	2,345			
	(非常勤特別職員) (臨時的任用職員)	(人)	(人)	(人)	(人)			
	正規職員人件費	0.90 人	7,849	0.95 人	8,227			
	事業費合計			10,200	10,572			
財源内訳	一般財源			10,200	10,572	2,398		
	国・県支出金							
	その他()							
実績	項目名	項目説明		単位	H 26	H 27	H28見込み	将来目標
	活動実績	スラグの生産量	年間のスラグの生産量	t	6,427	6,015	6,141	5,927
		スラグの利用量	年間のスラグの利用量	t	4,738	5,070	5,570	5,927
成果	項目名	項目説明		単位	H 26	H 27	H28目標値	将来目標
	成果指標	資源化率	利用したスラグの量 ÷ スラグの生産量	t	目標値 6,427	6,016	6,141	5,927
					実績 4,738	5,070	<input checked="" type="checkbox"/> 実績拡大図 <input type="checkbox"/> 実績縮小図	
目標達成状況	どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています		%	達成率 74	84	どちらかをチェックしてください		
改善点	(1)平成27年度中に改善した点(改善内容・その結果について記載してください)				(2)平成27年度成果指標の目標値が未達成の理由・分析			
	平成26年度より新たに実施した有効利用先(ブロック・再生砕石資源化)において引き続き資源化を行った。平成27年度は約400t増量し、494.58tの資源化を行い安定的な有効利用先の確保と費用削減を図った。				溶融スラグの安定的な有効利用先の確保を行っているが、リスク分散の観点から最終処分先の確保も重要になっている。			
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 終了	事業実施方法(複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> その他	理由	有効利用先において更なる資源量の増加を図るとともに、市内公共利用についても利用量の拡大を行う。			
		次年度予算	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	理由	有効利用量の増加に伴い費用削減を図っているが、引き続き東北大震災に伴う放射能測定等を行わなければならないほか、安定した最終処分に必要な予算の確保が必要なため。			
評価	(1)平成28年度に取り組んでいる状況				(2)今後の方向性			
	ブロック・再生砕石資源化先に、約500t増量し、1,000tの資源化を予定している。安定的な有効利用先の確保と費用削減を図った。				有効利用量の増加を図り、費用削減を行っていくが、リスク分散の観点から安定した最終処分先の確保も必要となっている。			
評価日	H28.8.17		評価者職氏名	課長 吉岡 庄平				
環境影響	有益な環境影響	2-2リユース・リサイクルの推進		有害な環境影響を及ぼす原因活動	電気・機械・作業車の使用		規制を受ける環境法令等	有
							緊急事態	有